

國學院大學文学部 × 国際交流基金アジアセンター 共催

連続フォーラム「アートがつなぐサイエンス・テクノロジー・倫理・美学」

音の芸術を構成するもの——聴く・再生・演奏の関係性から

講師: dj sniff (ターンテーブル奏者、DJ、キュレーター)

金子智太郎 (美学、聴覚文化論研究者)

2018年10月25日(木) 会場: 國學院大學5号館3階 5302教室

[第1部] 16:10 - 17:40 [第2部] 18:00 - 19:30 入場無料/申込不要



音楽、美術、メディアアート、映像、舞台芸術……等、様々な表現ジャンルの構成要素にある「音」。今回のレクチャーでは、現在の芸術文化の動向を「音」から批評的に捉え、サウンドアートをはじめとする表現とその理論を紹介します。さらに、ターンテーブルを使った演奏で活躍するdj sniff氏のデモンストレーションを交え、「聴く・再生・演奏」の関係性から、実験音楽の系譜や即興演奏、DJカルチャーを紐解きながら、現在における「音楽」のありようを考察します。



dj sniff (ターンテーブル奏者、DJ、キュレーター)

<http://www.djsniff.com/>

1978年生まれ。2004年にニューヨーク大学インタラクティブ・テレコミュニケーションズ・プログラム (ITP) で修士課程修了後、2012年までオランダのSTEIM電子楽器スタジオでArtistic Directorとしてリサーチ、キュレーション、レジデンシープログラムを担当。演奏家としてはターンテーブルと独自の演奏ツールを組み合わせながら実験音楽、インプロビゼーション、電子音楽の分野で活動。これまでにレバノン、イギリス、ドイツ、日本、台湾のレーベルから作品をリリースし、エヴァン・パーカーや大友良英らと共演をしている。2017年まで香港城市大学 School of Creative Mediaで客員助教授を務め、現在は東京に拠点を移し、アジア・ミーティング・フェスティバル (AMF) のコ・ディレクターを務める。

金子智太郎 (美学、聴覚文化論研究者)

<https://tomotarokaneko.com/>

1976年生まれ。最近の仕事に論文「環境芸術以後の日本美術における音響技術——九七〇年代前半の美共闘世代を中心に」(『表象』12号、2018年)、「一九七〇年代の日本における生録文化——録音の技法と楽しみ」(『カリスタ』23号、2017年)ほか。共訳にジョナサン・スターン『聞こえる過去——音響再生産の文化的起源』(中川克志、金子智太郎、谷口文和訳、インスクリプト、2015年)。雑誌『アルテス』でサウンド・スタディーズ/サウンド・アートをめぐる洋書レビュー連載(2011~15年)。日本美術サウンドアーカイヴ共同主催(2017年~)。東京藝術大学等で非常勤講師を務める。

お問い合わせ:

國學院大學文学部哲学科 研究代表者: 准教授 松谷容作 Email: matsuta_y@kokugakuin.ac.jp

国際交流基金アジアセンター 文化事業第1チーム 担当: 鹿島、廣田 電話: 03-5369-6140

※本フォーラムは、國學院大學平成30年度学部研究費による共同研究「アート、サイエンス、テクノロジー、倫理をつなぐプラットフォーム形成のための調査研究」の一環として行われます。